

「なすび原稿」を書いてみて

ペンネーム なすび

大人は助けてくれない！

これまで6回にわたってなすび原稿を掲載してきた。私がこの連載を書こうと思ったのは、子どもの頃に遭った性暴力に何年経ってもどこか納得しきれないまま、悔しさ・空しさ・怒りを抱え続けてきたこと、そして、自分の中にある異性への嫌悪感、それ以上に自分の女性性への激しい嫌悪感を抱え続けてきたことが大きな動機になっている。それでも一応恋愛をするようになるのだけれど、様々な面でどうしてもうまくいかず失恋を繰り返す中で、もしかしたら自分の生きにくさの中に、性被害を受けたことも少なからず含まれているのではないかと、考えざるを得なくなったからだ。

現在でも思う。スクール・セクハラに遭っていたとき、私だけでなく多くの生徒が何年も被害に遭い続けていて、周りで感じていた教師や、子どもから知らされていた親もいたはずなのに、なぜ何もしてくれなかったのだろう。なぜ助けてくれなかったのだろう？

実兄からの時は、その場限りではあったが、とりあえず母は助けてくれたものの、その出来事はタブーにされ、「あれくらいのことはいしたことじゃない！」と、なぜ母は軽く言ってしまうのか？（加害者が自分の息子、被害者が自分の娘ということで、母的にはとても複雑な心境であったと思うが）

20代になってからマッサージ中セクハラに遭い、それをポロリと母にこぼしたときも、とりあえず私のお話を聞き、加害者に嫌悪を示しはしたが、結局それ以上のことは何もしてくれなかった。私が「裁判」と、ちょっと口走っただけで“そんなことまでする必要はないわよ。面倒なことは辞めて！”と言わんばかりの母の表情。そして、「そういう被害って、誰にでもあるのよね！」なんてボソッと呟いている。母よ、娘が傷つけられたことが悔しくないのか？

なぜそこで怒れない！？……私には母の気持ちが理解できない。

また、被害を受けたことを打ち明けた男性から言われたセリフ（打ち明ける相手を間違えたあとも思ったが）「なぜもっと早く言わなかった？ バカ。俺より先に触るなんて許せない！」 こういうのを「二次被害」というのかもしれない。

傷の深さ

被害を受けたとき、それを信頼できる大人に打ち明け、その人が話を信じてくれて、「あなたは悪くない。自分を責める必要はない。」と諭してくれて、状況を改善するために行動を起こしてくれたら、子どもはどんなに救われるだろう。少なくとも個人差はあるだろうが、自分自身を強く責めたり、自分の性に激しい嫌悪感を抱き続けることはないと思う。

性的な被害を受けた子どもの傷は、たぶん、周囲が考えているほど甘くない。子どもの頃性被害にあった人が抱える問題としてよく言われるのが、精神保健上の問題だという。精神病を患ったり、免疫機能に障害を来して病気に感染しやすくなったり、性産業関係の仕事に就いたり、逆に性的な関係を拒否したり、異性を忌避し、中には同性愛への道を歩む人もいるらしい。もちろん、被害にあった人すべてがこうなるというわけではないだろう。しかし、私自身、子どもの頃から男性忌避の傾向はかなりあったし（まあ、同時に女の性も嫌悪していたのだが）、免疫系の病気も持っているし、好きになった相手とうまく性的な関係が持てない、など少なからず当てはまることがある。

世界が壊れる

また、他者からの被害もそうだが、身内からの被害はより悩ましい問題であると思う。私自身、一番

悩み深かったのは、やはり実兄からの被害だ。事情を知っていながら、「お兄さんのこと未だに拒否してるの？ まだ、過去を引きずってるの？」みたいな言い方をしてくる無神経な人もいるが、心底「なめんなよ」と思う。……子どもの頃、兄や父に何らかの形で性的に侵入されたら、とてつもない恐怖を感じるんだよ。実の兄や父を「獣」だって感じるんだよ。その最後の境界線を越えられたら、自分の世界が壊れてしまうんだよ！

なかなか他人に言えないだけに表面に出にくい問題で、それゆえに法や福祉からも見放されやすいのかもしれないが、身内からの性被害は想像以上に多いはずだ。

子どもを性的に犯す「性的虐待」や「性犯罪」。私

は子どもを性的な対象として扱い傷つける人間に強い怒りを感じる。しかし、たとえ加害者を極刑にしたところでこの手の犯罪がなくなるとは思えないし、今後も増え続けていくのではないかと感じているのも事実だ。だからこそ、子どもの頃からの性教育は必要だと思うのだが。

また、性被害に遭ってしまったときどうしたらいいのか。被害を打ち明けられた側はどうしたらいいのか、何が出来るのか、大人自身が戸惑ってしまうことがあるかもしれない。そこで最後に、私自身が読んで“いいなあ”と思った本や、そこに掲載されていた相談された側の気持ちの在り方や相談機関の一部を紹介したい。少しでも参考になれば幸いである。

《大人たちへ - 子どもから「性被害を受けた」と知らされたら - 》

安心して話せる場所で子どもの話を聴いてください。

どこまで話すかは子どもの選択に任せます。ただ、現在その子のいる所が安全な場であるか、加害者と完全に切れているのかは確認してください。

子どもの話を信じる。「あなたの話を信じる」・「あなたが悪いのではない」ということをはっきりと子どもに伝えてください。

被害にあった子どもがどうしたいのか、援助の資源を示し（カウンセリングに行くなど）本人の選択を尊重してください。

子どもがすぐに相談に行くことを希望しなくても、行きたくなくなったときに相談に行けるよう、相談場所の情報は示してください。

「話してくれてありがとう」と子どもの話した勇気をたたえ、“大切な存在”と子どもを尊重し、今後も相談を続けることができるように支えてください

(『10代の少女のためのガイド』より)

【書籍】

- * 『甦る魂 - 性暴力の後遺症を生きぬいて - 』: 穂積純著 高文研 '94年 ¥2,800
- * 『沈黙をやぶって・子ども時代に性暴力を受けた女性たちの証言 + 心を癒す教本(ヒリング・マニュアル)』
編集: 森田ゆり 築地書館 '92年 ¥2,000
- * 『子どもの性虐待・スクールカウンセラーと教師のための手引き』: 石川瞭子著
誠信書房 '05年 ¥2,400
- * 『性的虐待を生きる力に変えて「小さな女の子・男の子のためのガイド」』(他・同シリーズ5巻)
編集: グループ・ウイズネス 明石書店 '04年 ¥1,200
- * 『知っていますか? 「子どもの性的虐待」一問一答』: 田上時子・エクパットジャパン関西編
解放出版社 '01年 ¥1,000

【相談機関】

チャイルドライン（全国各地にあり。18歳までの子どもの電話相談）
〔ホームページ〕<http://www.ccap.or.jp>

子どもの虐待防止ネットワークなど（一部紹介）

- * 社会福祉法人子どもの虐待防止センター（CCAP）
『子ども虐待110番』 03(5300)2990 〔ホームページ〕<http://www.ccap.or.jp>
（このHPに全国各地の相談機関の掲載あり）
〔電話相談〕月～金 10:00～17:00 土 10:00～15:00（祝祭日を除く）

スクールセクハラ防止全国ネットワークなど

- * スクール・セクシュアル・ハラスメント防止全国ネットワーク（SSHP 全国ネットワーク）「子どもと女性のためのカウンセリングルーム CFCW - KAWASAKI 内」
06（6996）1355 E-mail:cfcw-kawasaki@orion.ocn.jp
（ホットライン）090-4768-8626
相談への対応（面接・電話・メール）への対応
出張ワークショップや研修講座、シンポジウム等の実施
弁護士、カウンセラーや関連機関等の紹介などを行います。
- * スクール・セクシュアル・ハラスメント防止関東ネットワーク
03（5328）3260 〔電話相談〕14：00～19:00
- * 各区役所・市役所などの人権教育課で「スクール・セクハラ相談窓口」を設けているところもあります。

弁護士への相談 - 子どもの電話相談など -

- * 子どもの人権相談窓口 〔電話受付〕月～金 10:00～12:00 13:00～16:00
045（211）7700 〔相談日〕毎週火 13:15～16:15
- * 子どもの人権救済センター（弁護士会館）
03(3581)2205 <http://www.toben.or.jp>
〔面談相談日時〕月・水 13:30～16:30（要予約）（祝祭日を除く）

寄り添うひとになるために

数年前、子どもの頃に性虐待を受けた人から話を聞かせてもらったことがある。彼女は身近な信頼する大人からの虐待に、大人になった現在でも苦しんでいた。エネルギーに溢れている彼女だったが、エネルギーの発揚の仕方が激しくて、周囲はその大きさに巻き込まれ、どう対処していいか解らないことが度重なった。周囲の反応が批判的になるといつの間にか彼女との関係は切れてしまっていた。

あの時、どう対応すればよかったのだろうか。言葉を失ってしまったことが彼女を何重にも苦しめたのではなかったのか。そんな思いを、「なすび原稿」を読んで思い出した。

何もできないが、共感できる気持ちだけは失いたくない。

（なすび読者・M）